

⑪-2授業改善推進プラン(中間改善計画)

小07 町田市立南大谷小学校

学力調査等の状況	
<p>学力調査の児童質問紙から、本校の児童の自己肯定感は、東京都や全国の平均に比べても高い様子が確認できる。また学校に対して肯定的に捉えている児童が多く、中でも友達関係に満足している割合が高い。学習に対しては概ね否定的な意見が多い。特に、計画的な学習、学校以外での学習、自分の将来などに関して悲観的な考えが目立った。一方ではまとめる活動や友達と協力して行う活動などは肯定的な意見が目立った。</p>	

見えてきた課題	
<p>国語については、自分の考えを「書く」ことに対するハードルが高いという課題が見られた。算数については、割合の問題において、「比較量＝基準量×割合」という原則そのものの理解が難しいという課題が見られた。</p>	

授業をデザインする8つの取組について	
見通しをもたせる導入	単元や学習の初めに、どのように学ぶのかなど、学習の流れを示す。学習の流れやめあてを提示し、常に意識させる。
ICT機器の活用	Chromebookを活用し、校内で教材を共有する。大型提示装置や書画カメラ、Chromebookを活用し、視覚的な支援を行い、興味関心を高めるとともに、確かな知識・技能の習熟を支える。
振り返りの設定	授業の終末でその時間の言葉の振り返りや確認問題などを通して、その時間の要点を確認したり、自身の習得状況を確認できるようにする。またそこから見取った児童の実態をもとに次の授業の授業構成(復習タイムなど)を検討し実施する。

各教科における課題を改善するための指導の重点				
	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年
国語科	<ul style="list-style-type: none"> ○目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて表現できるようにする。 ○図書や読書週間を活用し、読書習慣の定着を図る。 ○交流する時間を設定し、ICT機器を活用して自分と友達を考えを関連付けながら話したり、自分の考えを深めたりできるようにする。 ○本やインターネットで調べ、観察する、インタビューする活動を年齢段階に応じて取り入れ、情報を整理して大事なことをまとめられるようにする。 ○登場人物の行動や筆者の考えをより深く捉えるために着目させたい叙述を厳選して学習課題を設定する。 ○言葉集めや意味調べを通して児童の語彙を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ○目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて表現できるように指導する。 ○身近なことや経験したことを基に書く活動において、 ①経験したことや想像したことなどから書くことを見つける。 ②必要な事柄を集めたり確かめたりし、伝えたいことを明確にする。 以上のことに重点を置いて指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、要点を捉えて書けるように指導する。 ○事実やそれを基に考えたことを書く活動において、 ①相手や目的を意識する。 ②経験したことから書くことを選ぶ。 ③集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にする。 以上のことに重点を置いて指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○知識・技能を結び付け、活用する力を育むために、学習課題と既習事項との系統性を確認し、学んできたことを生かし、課題解決が図れるように指導する。 ○学習内容に関する自分の考えを書く活動を入れて指導する。また、児童が難しいと感じる課題であっても自分と他者の考えを交流させ、粘り強く取り組むことで課題を解決する経験ができるよう指導する。
社会科	<ul style="list-style-type: none"> ○様々な事象について自分なりの言葉で表現できるようにするために、社会的な事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えたり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会の関わり方について、考えたことを説明したり、話し合ったりできるようにする。 ○興味をもって自ら調べ、知識として定着させることができるように、学習課題の発問を中心とした提示を工夫する。 ○様々な資料を比較、関連付けて考えることができるように、副読本や資料集やICT機器を活用して多面的に考えられるようにしていく。 ○課題解決に向け、交流する時間を設定し、自分と友達を考えを関連付けながら話したり、自分の考えを深めたりできるようにする。 	<p>(中学年からスタートに向けて現時点で意識する指導の重点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○様々な事象について自分なりの言葉で表現できるようにするために、地域に出掛け、地域で生活したり働いたりしている人々と自分とがどのように関わっているかについて考えることに重点を置いて指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○身近に捉えられる資料を提示し、自分と社会とのかかわりについて考えられるようにする。 ○具体的な視点を示して、資料から事実を読み取れるようにする。 ○資料の集め方やインターネットを活用した調べ方を適宜指導し、調べ学習の技能を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習問題を常に意識できる授業の組み立てをする。 ○知識として知っているだけでなく、先人の働きをもとに、願いや意図を明確にしてから、自分の考えをまとめる時間を確保する。 ○複数の資料を比較したり、関連させたりして考えられるように、資料を精選したり、視点を明確にしたりして話し合い活動を設定する。
算数科	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えに根拠をもつことができるようにする。 ○身の回りにある事象やものなどについて、①基本的な知識・技能を繰り返し復習する。②既習事項を根拠として、式や図などを用いて説明できるようにする。 ○単元のねらいに沿い、且つ、その領域の系統性から見た一貫した指導をすることで、数量や図形に対する「見方、考え方」を養い、深い学びへとつなげる。 ○既習学習をもとに、新しい学習課題に出合わせることで、その時間、その単元の学習の見通しをもたせるようにする。 ○ICT機器を活用することにより、問題場面や考え方を視覚的に理解できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えに根拠をもつことができるようにするために、身の回りにある事象やものなどについて、①基本的な知識・技能を繰り返し復習する。②既習事項を根拠として、式や図などを用いて説明できることを指導の重点とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ICT機器と机間指導を併用し、児童のつまずきを探る。 ○九九を忘れていた児童がいたら、九九表(各教室に常時、置いておく。)を使って取り組ませる。また、面積の公式や単位表など、視覚的に理解できるようにヒントを活用する。 ○学習の振り返りを継続して行い、授業内容の定着や思考力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○長い文章が抵抗なく読めるよう、読む習慣をつけさせる。 ○前の学年で学習した問題を解く機会を増やしていく。 ○教科書の説明の数字を入れ替えて考え方を書く練習に取り組ませる。 ○クラスの人数を調整し、少人数で実施することで、個別対応を必要とする児童が学びやすい環境を整える。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えを根拠に、事象について自分なりの言葉で表現できるようにする。 ○学習課題を明確にし、理科の「見方・考え方」を働かせ、課題に対する見通しをしっかりとつよようにする。それをもとに、学習に主体的に取り組むことができるようにする。 ○実験を少人数(2023年度は特に個人での活動を工夫して設定する)で行い、基礎的・基本的な技能を身に付けさせる。 ○プログラミングの体験を通して、論理的思考力を身に付ける。 	<p>(中学年からスタートに向けて現時点で意識する指導の重点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えに根拠をもつことができるようにするために、身近な自然を観察するなどの活動を通して、それらの特徴や違いを見付け、それを表現できるように指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○主体的に解決するため、児童の体験活動から問題をつくっていく。 ○問題、仮説、観察・実験、結果、考察、結論といった問題解決の流れに沿って授業を行うことで、目の前の事象だけでなく、そこから予想したり、類推したりする科学的な考え方を身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○観察や実験のやり方を試演したり、確認したりすることで、正しい実験の仕方や実験器具の扱い方を身に付けさせる。 ○予想→検証(実験・調べ)→結果→結論という授業の流れを確立する。また、調べたことをまとめるなどの活動を通し、思考力・判断力・表現力を伸ばしていく。

⑪-2授業改善推進プラン(中間改善計画)

各教科における課題を改善するための指導の重点				
	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年
生活科	<ul style="list-style-type: none"> ○体験活動を取り入れる。単発の体験ではなく、没頭して何度も挑戦できるような体験活動になるように工夫する。 ○伝え合いや発表などの表現活動を適切に位置付ける。 ○体験活動と表現活動の相互作用によって学習活動を質的に高めていく。 ○2年間を見通した指導計画を作成することによって、身の回りの対象への見方や考え方を広げ、思考力を伸ばす。 	<ul style="list-style-type: none"> ○様々な事象について自分なりの言葉で表現できるようにするために、地域に出掛け、地域で生活したり働いたりしている人々と自分とがどのように関わっているかについて考えることや身近な自然を観察するなどの活動を通して、それらの特徴やよさに気づき、それを表現できるように指導する。 		
音楽科	<ul style="list-style-type: none"> ○毎時間の学習のめあてを明確にしたり、学習の流れを伝えたりすることで、児童が見通しをもち、主体的に学習に取り組めるようにする。 ○ICT機器を活用した児童が関わり合う学習形態を工夫し、互いの意見を共有したり、自分の思いをもったりできるようにする。 ○ICT機器を活用したふりかえりカードなどを使って、毎時間のふりかえりを行い、見通しをもって学習に取り組めるようにする。 ○学習した知識・技能と自分の思いや表現を結び付けることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○毎時間の学習のめあてや本時の学習内容を掲示し、見通しをもって学習に取り組めるようにする。 ○体を動かしながら音楽を聴いたり、友達と拍を合わせて楽しむなどの活動を通して、気付いたことや感じたことを自分の言葉で表現できるように指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○毎時間の学習のめあてや学習の流れを掲示し、見通しをもって学習に取り組めるようにする。 ○既習事項が生かされるよう題材構成を工夫し、児童が主体的に学習に取り組めるようにする。 ○体を動かしながら音楽を聴いたり、友達と拍を合わせて表現する活動を通して、気付いたことや感じたことを旋律の特徴をもとに説明することができるよう指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○毎時間の学習のめあてや学習の流れを掲示し、見通しをもって学習に取り組めるようにする。 ○既習事項が生かされるよう題材構成を工夫し、児童が主体的に学習に取り組めるようにする。 ○構成を考えながら音楽を聴いたり、多様に表現する活動を通して、気付いたことや感じたことを音楽を形づくっている要素を根拠に説明することができるよう指導する。
図工科	<ul style="list-style-type: none"> ○題材と既習事項との系統性を確認し、学んできたことを生かしながら、学習が進められるような学習展開にする。 ○毎時間の学習のめあてを明確にしたり、学習の流れを伝えたりすることで、児童が見通しをもち、主体的に学習に取り組めるようにする。 ○表現したい気持ちを持ち、大切にしながら題材に取り組むことができるようにICT機器を活用し、題材の提示の仕方を工夫する。 ○他者との関わりの中で自分の内面に気づき、相手の良さを感じ取ることのできる鑑賞活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○題材ごとのめあてを明確にし、板書する。児童がめあてに向かって学習に取り組めるように学習の中で区切って適宜指導するようにする。 ○どの教員でも同じように基礎基本の定着が図れるよう、ICTを活用した導入を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○題材と既習事項との系統性を確認し、初めて学んだこと、今まで経験したことをわかりやすく捉えらるよう板書等を工夫する。 ○毎時間の学習のめあてを明確にし、板書する。児童が定期的なめあてに立ち返れるよう机間巡視の際に声をかける。 ○ICTを活用した導入と具体物を使用した導入を併用し、様々な児童への基礎基本の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○題材と既習事項との系統性を確認し、今までの経験を生かして自分で表現を選択できるような材料や用具の提供方法を工夫する。 ○めあてに向けての取り組みを自ら調整していきけるよう、題材ごとの振り返りを行う。 ○ICTを活用した導入と具体物を使用した導入を併用し、基礎基本の定着を図るとともに、児童の発想が広がるよう導入を工夫する。
家庭科	<ul style="list-style-type: none"> ○友達の良さに共感できるように作品の常時展示を増やし、良さ目標を身近に感じさせ、ビデオなどを取り入れたわかりやすい指導を行う。 ○毎時間の学習のめあてを明確にしたり、学習の流れを伝えたりすることで、児童が見通しをもち、主体的に学習に取り組めるようにする。 ○個人カードや評価カードを作成し、めあてをもって最後まで取り組ませる。 ○学習したことを家庭でも実践することができるよう実践カードを活用する。 			<ul style="list-style-type: none"> ○友達の良さに共感できるように、作品の常時展示を増やし、良さ目標を身近に感じさせ、ビデオなどを取り入れたわかりやすい指導を行う。 ○ICT機器を使用し、題材を視覚的に分かりやすく提示するなど工夫する。 ○毎時間の学習のめあてや学習の流れを明確に伝え、児童が見通しをもち、主体的に学習に取り組めるようにする。 ○個人カードや評価カードを作成し、めあてをもって最後まで取り組ませる。
体育科	<ul style="list-style-type: none"> ○体力向上に向け、運動量の確保を忘れず、児童が様々な運動を「やってみよう」と感じられるようにしていく。 ○運動の楽しさや、できたときの喜びを味わわせることができるようにルールや教具などの工夫をする。 ○学習カードやクロムブックを使って、個人やチームの課題や自分の考えを振り返られるようにする。 ○個人やチームの課題に向けているような作戦例や練習の場を準備する。選択した応用させたりしていくことで、考えて解決していけるようにさせる。 ○話し合いと振り返りの時間を設ける。 ○コアディネーショントレーニングを取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習した知識・技能を、活用しなくなるような活動を設定する。また、グループ活動等を通じ、自分と他者の考えを交流させながら活動を工夫していくなど、主体的に取り組めるようにする。 ○体力向上に向け運動量の確保を忘れず、児童が様々な運動を「やってみよう」と感じられるような指導を重点とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習した知識・技能を結び付け、活用できるような学習課題を設定する。また、グループ活動等を通じ、自分と他者の考えを交流させることで、課題に対する理解を深められるようにし、主体的に課題解決に取り組めるようにする。 ○体力向上に向け運動量の確保を忘れず、「わかる、できる」を目指した指導を重点とする。ICTを活用し、成果の「見える化」を図る。 	
外国語科	<ul style="list-style-type: none"> ○学習課題と既習事項との系統性を確認し、学んできたことを生かしながら、学習が進められるようにしていく。 ○ICT機器(デジタル教科書など)を効果的に活用し、外国語の音声や外国の映像を見て、外国の文化に親しむことができるようにする。 ○児童同士・児童とALTとの英語での交流の時間を多く設け、英語が話すこと、伝わったことの喜びを味わわせることができるようにする。 ○英語ワークシートやノートを活用し、英単語や文章を書き写すことを通して、アルファベットや単語に慣れ親しませ、中学校の学習に繋がるようにする。 			<ul style="list-style-type: none"> ○知識・技能を結び付け、活用する力を育むために、学習課題と既習事項との系統性を確認し、学んできたことを生かしながら、学習が進められるような学習展開にする。また、児童が難しいと感じる課題であっても自分と他者の考えを交流させたり、繰り返しコミュニケーションを取ろうとしたりすることで英語を身に付けられるような指導を重点とする。

⑪-2授業改善推進プラン(中間改善計画)

各教科における課題を改善するための指導の重点				
	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年
総合的な学習の時間	<p>○自然体験・ボランティア活動・ものづくりなどを通して、問題の解決や探究活動を行う。</p> <p>○地域の方やボランティアの方の協力を得て、社会とのかかわりを考える学習活動を行っていく。</p> <p>○国際理解・・・国調べや交流活動を設定して興味関心を高める。</p> <p>○銀杏プロジェクト・・・全学年で銀杏拾いや銀杏販売を行い、キャリア教育や国際理解への興味関心を深める。</p>		<p>○自然体験・ボランティア活動・ものづくりなどに関する探究活動を行うことを通して、課題解決に向けての過程や解決したことの内容をまとめたり、それを発表したりする中で、他人の考えに対して、その良さや自分の考えとの共通点、相違点に気付くことを指導の重点とする。</p>	<p>○自然体験・ボランティア活動・ものづくりなどに関する探究活動を行うことを通して、課題解決に向けての過程や解決したことの内容をまとめたり、それを発表したりする中で、他人の考えに対して、その良さや自分の考えとの共通点、相違点に気付くことを指導の重点とする。</p>
特別の教科 道徳	<p>○教科書を活用し、様々な価値について考える活動の中で、児童が自分の生き方について考える力を養っていく。</p> <p>○学年や児童の実態に即した発問を精選することで、ねらいとする価値を深め、道徳の時間の充実を図っていく。</p>	<p>○自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方について考えられるようにするために、様々な登場人物の立場で考えさせたり、ねらいに合わせて発問を絞ったりし、身近なことから道徳的な価値の理解を深めていくことを指導の重点とする。</p>	<p>○自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方について考えられるようにするために、何について考えるのかを指導者が明確に示すこと。また、自分の考えを基に書いたり、話し合ったりするために、身近な人や地域、外国の人との関わりについて考えられるようにしていきけるように、資料の選定や発問の工夫を行っていくとともに、教師が受容的な姿勢をもつことを重点とする。</p>	<p>○自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方について考えられるようにするために、何について考えるのかを指導者が明確に示すこと。また、自分の考えを基に書いたり、話し合ったりするために、社会通念を理解し、国際的な外国の人と触れ合うことを想起しながら、自分どのように生きていくかを考えられるように、資料の選定や発問の工夫を行っていくとともに、教師が受容的な姿勢をもつことを重点とする。</p>
特別活動	<p>○学級、児童会・クラブ活動などで話し合い活動を充実させ、学校生活や行事をより楽しく豊かな内容にするための自治的実践的な態度を育てる。</p> <p>○縦割り班による活動を通年で行い、異学年との交流を深め、主体的に行動する力や豊かな人間関係の育成を図る。</p>	<p>○児童の考えを深め、表現する力などを育むために、児童が多様な感じ方や考え方に接することができるように、何について考えるのかを指導者が明確に示すこと。自分の考えを基に書いたり、話し合ったりするために、日頃から何でも言い合え、認め合える学級の雰囲気をつくることともに、教師が受容的な姿勢をもつことを重点とする。</p>	<p>○学級、クラブ活動などで話し合い活動を充実させ、学校生活や行事をより楽しく豊かな内容にするために、話し合いのルールを身に付けさせたり、日頃から何でも言い合え、認め合える学級の雰囲気をつくることとともに、教師が受容的な姿勢をもつことを重点とする。</p>	<p>○学級、児童会・クラブ活動などで話し合い活動を充実させ、学校生活や行事をより楽しく豊かな内容にするために、話し合い活動の中で自分の考えを基に書いたり、話し合ったりするために、日頃から何でも言い合え、認め合える学級の雰囲気をつくることとともに、教師が受容的な姿勢をもつことを重点とする。</p>
外国語活動	<p>○クラスルームイングリッシュを活用し、英語に親しむ。</p> <p>○ALT、友達との交流を楽しむことで英語教育の充実を目指す。</p> <p>○放課後英語教室を実施し、英語に抵抗感なく親しもうとする児童を育てる。</p>	<p>○様々な相手と互いの考えや気持ちを伝え合い、コミュニケーションを図ることの楽しさを実際に体験するために、ALTや友達と交流の場を多く設ける。英語で伝え合えた満足感や達成感を得られるようにする。</p>	<p>○様々な相手と互いの考えや気持ちを伝え合い、コミュニケーションを図ることの楽しさを実際に体験するために、言葉を使って伝え合う体験を通して、相手に対する理解を深めたり、自分の思いを伝えたりして、英語で伝え合えた満足感や達成感を得られるようにする。</p>	